

2班 健全な心身を保つ環境の整備

課題	だれが	なにをする	備考
<b>相談窓口の拡充</b>			
40才以上の自殺	市町村	相談窓口の拡充	
ゲートキーパーの質の向上	県	相談者にあったゲートキーパーの提供	年齢、性別、などで悩みに様々でありゲートキーパーの中でも相談者に近い人を提供することで、気持ちがかつてもらえる。
ゲートキーパーの人材の確保	県	担当範囲を狭め、深く学ぶ	担当年齢を狭めることでハードルを下げる
ゲートキーパーの役割の重要性	県	ゲートキーパーの同世代化	悩む内容が近いから共感しやすいから
健全な心身を保つ環境の整備	県	電話相談の窓口の資料を学生だけでなく大人にも知ってもらえるようにする。	誰でも相談したい悩みは有るから。
自殺防止対策の改善	県	40代～60代を対象とした窓口の検討	40代～60代を対象とした対策が少ないから
知る機会を増やす	県	ホームページなどにもう少し細かくまた項目ごとに相談できるようにする	少しでも専門家に近づけるようにする
相談窓口の拡充	市	市役所、区役所に電話で相談することができるようになる	直接会って話すより話しやすい
男女の相談窓口の利用率の差をなんとかする（男性の利用率向上）、課題1の解決にも繋がるかもしれない。	県	男性に相談するか女性に相談するか選択できるようにする	相談する相手が男性か女性かというのは非常に大きな問題であり、同性にしかわかり得ない悩みもあるだろうから。
年齢別の自殺者数（中高年者の増加）	県	その方の年齢に有った方に相談できるシステム	おたがい話しやすく話がつうじるのではないか。
年齢別の自殺者数（中高年者の増加）	個人	親身になって聞く	知らない人には、色々と相談しにくい
窓口対応	県	県民の声を反映し、県民へのフィードバックを公にする	
窓口対応	市区町村（役場）	窓口相談へ来た人の、背景を知ろうとする。背景を知った上で、専門職への連携を図る	
窓口対応	市社協、地区社協	訪問時やサロン開催時に感じ取った気づきを積極的に共有。自分の職種を明かさずに専門職がサロン等へ参加してみる	
<b>ゲートキーパーの養成</b>			
「悩み」の相談場所拡充	ゲートキーパー	研修内容の強化	ゲートキーパーは一般人、プロの知識はない。「死にたい」ディープな悩みにプロを交えて対応を。
SNSパトロール	県	若い10代、20代の公募 インセンティブを払う	SNSに関して不得手な県の職員ではなく、SNSをもの凄く活用している人をリモートで嘱託採用して頂けると良いと思います。

2班 健全な心身を保つ環境の整備

課題	だれが	なにをする	備考
ゲートキーパーと専門職との連携	教育現場	特に教育学部のある学校や医療福祉の専門職大学や専門学校生へのゲートキーパーの役割を認知を知る機会を作る。義務教育現場への講座を行う	
ゲートキーパーと専門職との連携	県	ゲートキーパーと市区町村をつなげる	
ゲートキーパーの確保	県	無差別に選び出し、できる人に依頼する	ある程度の人数の確保がしやすい
ゲートキーパーの確保	市	各自治会長に適切な人の選出を依頼する	地域の状況を知っているため
ゲートキーパーのクオリティの推進、子供への気づき	県	クオリティを高めるため、具体的事例を元に実践に即した内容の検討	
ゲートキーパーの増員	県	ゲートキーパーの指導教育	ゲートキーパーの研修だけではなく、ゲートキーパーの心のケアも必要と思います。
ゲートキーパーの多年性（同じ境遇）、相談相手は同年代の方で話を聞く	県	ゲートキーパーの色々な年代の人に知ってもらい、参加してもらおう（大学、職場等）	このような講習を受けるのは全体的に中高年の方が多いように思える
ゲートキーパーの養成、スキルアップ	県	ゲートキーパーの育成（増やす、スキルアップ）	スキルアップ、見抜く力、判断力を身につける。
ゲートキーパーの養成・スキルアップ	各専門期間	一歩踏み込んだ対応ができるように	
ゲートキーパーの養成・スキルアップ	県	研修のあり方	心の問題以外にも、経済、雇用、負債など多くの方面からのアプローチが必要であるため
自殺の原因・動機から見た対策	県	自殺要因の分析	根本的な要因が不明確なままであるため。
自殺予備軍への対応	県	ゲートキーパーの育成	各世代での育成を進めていく
自殺予備軍への対応	地域	育成機関の充実	誰でも受講できるようにする
若年層の自殺	県	ゲートキーパーの拡充（若年層に強い）	
若年層を重点に置いた自殺対策の推進	県	自殺対策に関わる人材の養成、そのためアンテナとなるゲートキーパーの養成、核となる人材の養成	アンテナ役だけでなく、核となる人との共同取組
人材育成（ゲートキーパー）	県	ゲートキーパーに対してスキルアップ、教育を実施する	
引きこもり対策	県	引きこもり対策をしているNPO等と連携	引きこもり対策として、引きこもりしていても人との会話がキチンと出来る人もいるので、ゲートキーパーとして育成することにより社会貢献に役立ち、相談した本人も話しやすいと思います。幸せな家庭を築き、高学歴の先生よりも有る意味当事者に寄り添った対策になるのかもしれないし、引きこもり対策にもなると思います。同じように元多重債務者等。

自殺対策の周知、PR

2班 健全な心身を保つ環境の整備

課題	だれが	なにをする	備考
「悩み」の相談場所拡充	県	社会人に相談サイトを知ってもらえるように	学生は相談広告を学校で配られるが、社会人はない
40才以上の自殺	県	SNSで呼びかけ	CMからやポスターの本数が少ない
PRの仕方について	県	大人の相談窓口のポスターや宣伝を増やす	大人の方がポスターを見る機会が少ないから。
PRの仕方について	テレビ局	自殺についてマイナスなことを多く報じず、改善策を報じる	自殺の連鎖をなくし、生きる方を報じることで、自殺を考える方の考えが変わるから。
ゲートキーパーのクオリティの推進、子供への気づき		Line、チャット、SNS等、若者が使用するもの	
ゲートキーパーの人材の確保	NPO	情報発信	ゲートキーパーの認知
ゲートキーパーの多年性（同じ境遇）、相談相手は同年代の方で話を聞く	市町村	大学、職場等の選別して伝える	ゲートキーパーのステッカーを貼る
ゲートキーパーの役割を周知する	県	ゲートキーパー育成のチラシ配布、SNSなども活用	
心の叫びをキャッチ	県	広報とかで周知する	心地よい静岡
自殺者を助ける、マスコミの情報、多くする	県	NHK、民放、インターネットを利用して、広く情報伝達	経済的支援方法、心のよりどころ相談窓口を広める
自殺者を助ける、マスコミの情報、多くする	個人	ゲートキーパーの役割研修、「経済支援」の窓口紹介、出来るようになる。	身近な相談者になる。
自殺する方に対しての相談窓口を広げる	県	窓口のステッカー等をつくる	駅や市役所、人口の集まるところに貼る
自殺する方に対しての相談窓口を広げる	市町村	貼る場所を決める	浜松は車社会で静岡市は駅利用大
知る機会を増やす	メディア	新聞の広告や年代別のメディアに発信してもらう	
相談窓口の拡充	県	TV、ラジオ、ケーブルTVで自殺予防の番組を流す	現在も行っていると思いますが、回数を増やす
相談窓口の拡充	市	市の広報で窓口がある事を連絡する	
相談窓口の周知	県	ポスター、回覧板など、生活上で目につきやすいところでアピール。例：母子手帳配布や検診時などに電話相談チラシを配布	広く周知するためには、SNSが効果的か
相談窓口を知っているにもかかわらず利用せずに自殺まで至ってしまう事例を減らす	県	どのように会話が行われているのか、その「例」を伝える。会話の進み方の例のようなもの、画像を貼るなど	電話では特に、相手が第一声何というかを予測して、それに対する返答を準備してからでないと電話を掛ける一歩が踏み出せないという人も多いはずだから。
電話相談・LINE相談	県	今まで広報していなかった世代への広報	相談窓口の周知の徹底のため
相談窓口の周知率の向上	県	SNSを使って広める	

自殺対策の連携・組織図

2班 健全な心身を保つ環境の整備

課題	だれが	なにをする	備考
価値観	県	教育委員会との連携	【成功も失敗も自己責任】と考える傾向が日本においてとても高いと考えられます。
ゲートキーパーの人材の確保	県	フローチャートの作成。 地域等の連携が分かる様に。	簡単に理解できるもの
ゲートキーパーの役割とは何か	県	役割を明確にする。対応組織図の作成。	どこまでの手助けができるのか分かりやすくする
健全な心身を保つ環境の整備	学校	生徒が抱えている悩みを話しやすい環境を作る。また、県や市町だけではなく、色々なところと連携する。	県民が健全な心を保つために市町があって、県があるから。
自殺の入り口対策	県	どこに相談すべきか分かるフローチャートのURLを貼る	自殺予備軍は、一人で抱え込みがち
電話相談、ゲートキーパーの役割	ITのプロ+福祉課	相談の入り口は人間では荷が重い。そこで、BIGDATAを使ってのアルゴリズムを使い、Yes, Noで専門の窓口まで導く。	自殺対策の連携組織図を作る

SOSのサインに気付く

「悩み」の相談場所拡充	自分	SOSのサインに気付く	友達、周りの人、悩んでいたら話を聞いてあげる。SOSのサインは何？
SNSトラブル	県	SNSトラブルにおけるネットパトロール、その他の対策における教育委員会との連携	SNSトラブルは気付かれにくい問題なので、まずは事の発見に力を入れるべきだと思います。
生き心地の良い社会づくり	学校	生徒からではなく、カウンセラーから調子を聞く	自分で悩みを打ち明けられない人もいるから
生き心地の良い社会づくり	家庭	子供の話を聞く温かい家庭 子どもの悩みは親が一番身近である。	幼少期の経験が大人になって左右されるから
生き心地の良い社会づくり	県	自殺対策は後追い、「生きたい」と思える街づくり	相談受けても対応の仕方が分からない。 どういった人が相談が必要か分からない。
ゲートキーパーと専門職との連携	市区町村(役場)	地域でのゲートキーパーの養成・教育現場での講座・回覧板等を用いた相談窓口の紹介や電話番号等を記載したビラを配布	
ゲートキーパーのクオリティの推進、子供への気づき	市町	子供の出すサインについて、家庭と学校で共有して対処する。	学校、家庭つながり
ゲートキーパーの役割とは何か	個人	身近な人の異変に気付きを持てるようになる	気付いた時の対応力を身につける必要がある
ゲートキーパーの養成、スキルアップ	市町	横との繋がりを強化	異変に気付く。
孤独感をなくす	県	各地域の学習館、自治会等を利用する	地域との密着 孤独な人間を出さない。
自殺者を助ける、マスコミの情報、多くする	市	身近な相談者を町内会まで広める(個人情報の取扱い必要)	相談窓口を増やし、コミュニケーション広げる
自殺の入り口対策	地域	子ども食堂、寺子屋などの居場所づくり	人間性の形成を地域全体で支える

2班 健全な心身を保つ環境の整備

課題	だれが	なにをする	備考
若年層を重点に置いた自殺対策の推進	市町	子供（10代）自殺対策の推進、子供の発するサインを家庭、学校での気づきの推進	自殺者は自分の出しているサインを気付いてほしい
若年層を重点に置いた自殺対策の推進	市町	生活に困窮した人の自殺支援、母子家庭で女性の派遣切りで困窮家庭の生活費支援	若者への経済支援
知る機会を増やす	市町	何か別の相談に来ていても、少し体調などの情報を聞き、気になる点があれば窓口を教えるなど	
人材育成（ゲートキーパー）	県	関係部署（教育等）との連携	障害福祉課だけで対応できないときに連携する。
誹謗中傷	アプリ制作企業	悪意のあるコメントの規制、削除。誹謗中傷した人の特定	
誹謗中傷	県	企業との連携・呼びかけ	匿名で簡単に悪意のあるコメントを書き込めるようになってしまっている現状があるので、コメントに規制をかける。
本内容の施策に関しては、もっと絞り込んだ施策を実施した方が良い	市町	地域性にある内容を纏める	地域性の傾向をつかむ
その他			
SNSパトロール	県	法テラス	また、法テラスとも連携、橋渡しをして削除及び誹謗中傷による損害賠償請求を出来るような補助金が有ると強いアピールになると思いました。
うつ病の繰り返しの発病	医者	薬は短期間しかけて出さない。不眠に関しては照射療法で、太陽光と同じ力を利用する。	人間の持っている本来の力にまかせる。
自殺対策シンボル 全国に対してのアピール	県	—	青木ヶ原樹海 自殺の名所を近くに位置しているので、全国の自殺対策のシンボルとして手がかりを作れると良いと思いました。
自殺の入り口対策	企業	自己診断方法の研究	
自殺の入り口対策	県	資金補助	
若年層の自殺は絶対許されてはいけない。では、生きる力をどのように身につけさせるか。	校長（小・中）+福祉課	アトランダムに同学校以外の生徒を集め、年2回自然の中で5日間生活させる。静岡県の自然の中で、植物の力、キャンプファイヤを経験させ、人の接し方を経験させる。	日常生活の中で閉塞感と差別を感じて心が病んでいる為、全く非日常の中で生きる力を実感させる。（40代、50代の自殺とは違い、しがらみのない年齢で「一人で生きられる」という能力を実感させる。お金とか、成績とか、外観でないことを感じさせる。）
悩みの改善	金融機関	金融融資	経済の不安を取り除く
本内容の施策に関しては、もっと絞り込んだ施策を実施した方が良い	県	施策の内容を絞り込む	根本的な原因が把握できていないので、可能性を一つずつ潰し紐で行くことが必要と考えます。